
三人のHawk

チヨボロン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三人のHawk

【Z-コード】

Z5009BA

【作者名】

チヨボロン

【あらすじ】

俺はなんでも屋をやっている高校生21歳だ（笑）高校生ライフサイコー！つと思いながら高校最後の修学旅行で俺は事故に合つ、俺は死んだ・・・つと思いきや俺は森の中で倒れていた！そして物語は動き出す！！

プロローグ（前書き）

この小説は受験生であるにもかわらず暇な中学生が書いたものです
言葉がなってないかもしれません

見てくれたら幸いです

そして世界を救うのはなんでも屋！？を改良したバージョンです

はどうぞ「三人の Hawk」

プロローグ

? 「ダウトーーー！」

親友が出した7の次のカードで俺は叫んだ！

俺は赤城良
あかぎりよ
う

高校3年生なのに18歳と年齢をだまして高校生をやつている21
歳だ

出身地は京都、なんでも屋をやつしている男だ！
なんでも屋つて何つてか？

ひとつは銀 に憧れたからだ
仕事は簡単、銀 と一緒にw

これは秘密で独自でやつている、学校にバレないよう尼・
最近の大きな仕事は最近勢力を伸ばしているヤクザの組織を潰したことかな

1万人位軽いって（笑）

なぜつて？

簡単だよ俺の一家が我流の剣術（一刀流赤木流）をやつていて
それで小学生からありえないくらいの修行をしたからだ

どんな修行つて？

想像にお任せします

そして俺は「自由の赤い翼」と呼ばれている

今日は修学旅行で、東京に行く
と言つても東京にして、バスにいる

いいだろ？（－－）ニヤリ

俺は高校生ライフを楽しんでいる

今俺はバスのなかで親友2人とダウトをやっている

これは盛り上がる

親友B「残念、この30枚全部お前のな」

そういうて俺にみせたカードを見せた

8だつた・・・

こいつ（親友B）は俺の親友、相澤直人
あいざわなおひと

直人は俺と一緒になんでも屋をやつしていく俺のサポートをしてくれる
一様柔道をやつしていく多分持たれたら誰でも負けるくらい強い
歳は俺と一緒に「投げる軍師」と呼ばれている
はつきり言ってカッコ悪いので多くの人は「軍師」とよんでいる
例にヤクザの制圧で人数、地図、脱出経路などなどと役に立つていて
こいつと話すようになった理由は依頼で助けたら入ってくれた

良「30枚だと・・・嘘だろ？」

30枚つて結構な量だぞ
トランプ半数越してるし・・・

直人「ほんとだよ（－－）ニヤリ」

良「クソが！－－！」

親友A「お前つていつも数が溜まつたあと外すよな」

こいつ（親友A）は俺の親友、大原雅之
おおはらまさゆき

なんでも屋を一緒にしている

雅之は昔、海外で親と戦争的なサバイバルな生活をしていたため
自衛隊の心得をもつていて、銃や爆弾使っている

例に、俺が前線で戦っているとき、援護射撃をしてくれたり（もち
ろん死んでいません）

ヤクザの組織の建物を破壊してくれたりする

こいつは「圈外スナイパー」とか「ボムキラー」などとカッコイ名
前が多い

こいつも直人と一緒に依頼で助けたら仲間になってくれた

雅之「まあ・・・どんまい、直人ナイス（ヒソヒソ）（ヒソヒソ）b
グッ！」

良「なに直人に（ヒソヒソ）bグッ！」ってしてんだよーてめは
鬼か！」

雅之「鬼ですがなにか？」

良「くそおおおおー！」

くそー30枚はきつい俺あと5枚くらいだったのに35枚にちやつ
たテヘペロ

直人・雅之「キモイよ」「

良「俺なんか言つた！」「

直人「あれ？違うかつた？」

雅之「まじで、俺は違うくはないんだと思つたんだけど・・・」

良「言つてねーよ！」

直人・雅之「違つ違つあつちに逝つたんだよ」

良「感じ違う！てか、あつちなんだよあつちって」

そういうと一人は右手の甲を左手のほっぺに持つて行つて乙女のポーズをとつた

良「逝かね～よ～！」

直人・雅之「なんだ・・・残念・・・」

良「あんたらは、グルなんか？てかグルだよな？」

直人・雅之「違います！」

良「おんなじ」と言つておんなじタイミングで言われても説得力ね

一わ

はああ・

何回ソッコ//いたかわからねえや・・・

良「直ラッショ、雅ラッショ、僕もう疲れたよ・・・」

直人・雅之「さよなら（*^-^）ノバイバイ

良「感動の場面だろ！何勝手にさよならとかいってんのー。」

直人「だつてパラツユ二匹もいないし

良「まあそりだけど・・・」

雅之「だいたい、疲れたなら寝てろって

良「そういう意味で言つたのかよ・・・」

ピンポンパンポン

アナウンス「もうそろそろで付きますので荷物を運べるよう人に準備してくださいね～」

あ、終わつたもづりょつと聞きたかったな

女の人の声好きなんだ・・・

てか声フェチなんだ（笑）

直人・雅之「つと思つている良がいた・・・」

良「心を読むな！」

雅之「いや声にでたたし」

マジで？

直人・雅之「うんマジマジ

良「今絶対言つてないだろ！なんで分かんだよ！」

直人・雅之「わかりやすいからに決まつてんだろ……舐めどんのか！」

良「逆ギレかよ！」

そういうなんの意味もない会話が続いた
が、

ドガチャン！・・・バツシャン！

と音を鳴らした

そう、トラックが俺たちが乗っているバスに右から突っ込んできた
しかも運が悪く俺たちは橋の十字路（左に行く道がない）に居た
ぶつかったあと橋から落ちて海に放り出されたのだ・・・

そして俺は死んだのか・・・

プロローグ（後書き）

読んでもらってありがとうございます

いきなりですがアンケートをとります（笑）

アンケートの内容はなんでも屋をやるかどうかといつことです

1、なんでも屋をやって、管理局からの依頼でリリなのに乱入

2、なんでも屋をやって、自由に3人で暮らす話にしてリリなのに
はあまりかかわらない

3、なんでも屋をやらないで、ゆりかごが出た時危ないと思つて乱入

4、なんでも屋をやらないで、ヴィヴィオを見つけて乱入

5、なんでも屋をやらないで、次元漂流者で保護されて乱入

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5009ba/>

三人のHawk

2012年1月13日23時02分発行